

第4期中期目標期間の 教育研究評価の実施について

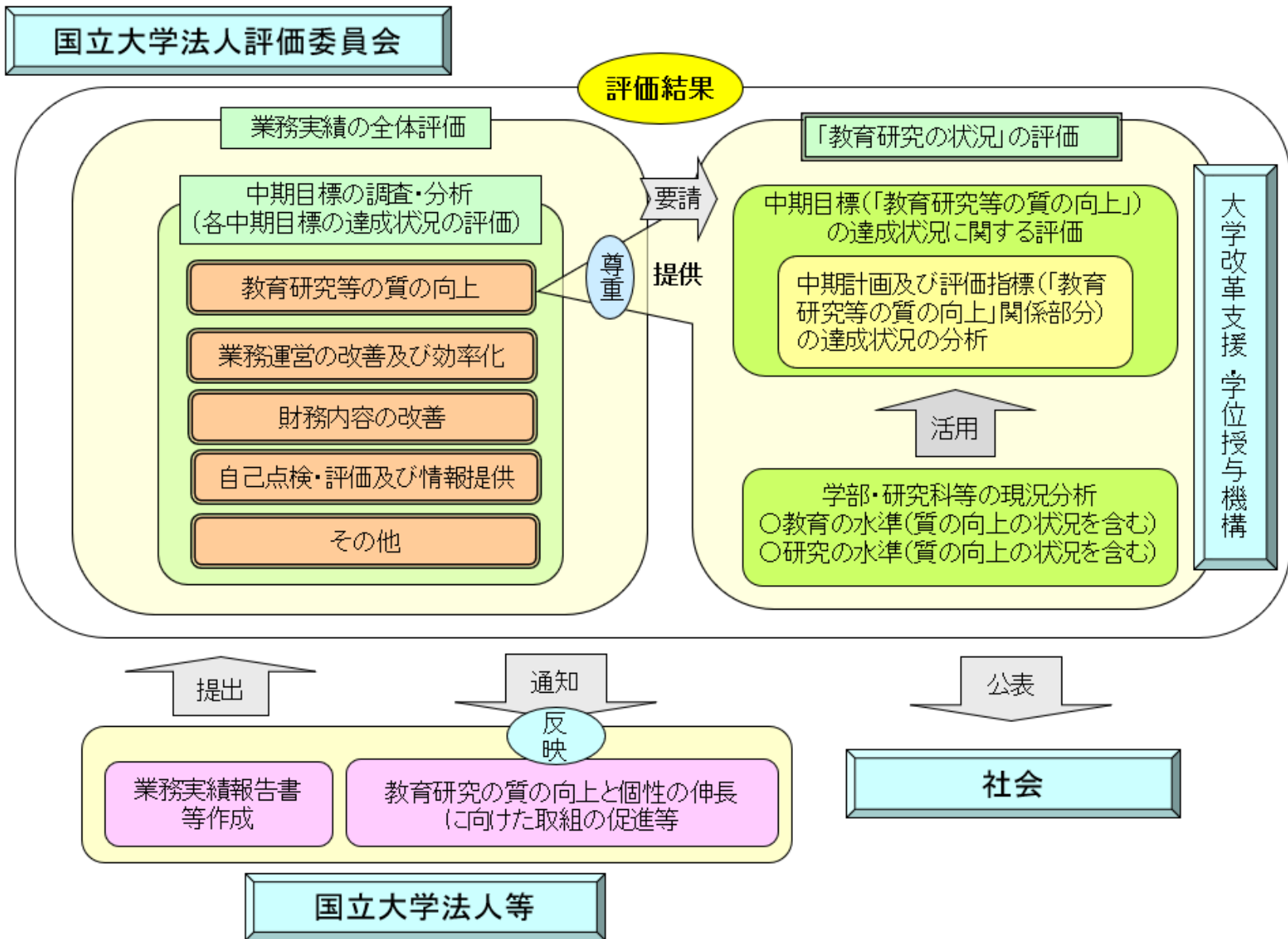


独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構



国立大学法人評価の全体像



1. 中期目標の達成状況に関する評価

- 達成状況報告書の作成
- 達成状況の評価方法



中期目標の達成状況に関する評価

- ◆ 各法人が中期目標大綱から選択した項目のうち、教育研究に係る中期目標・中期計画の達成状況を評価。第4期中期目標期間においては、中期計画に設定された評価指標の達成状況を重視した評価を実施。

<各法人に提出いただくもの>

- ・ 中期目標の達成状況報告書

【達成状況報告書の構成】

① 大学の概要

→ 大学名（法人名）、所在地、役員の状況、学部等の構成、学生数及び教職員数とともに、「基本的な目標等」や「機構図」を記載。

② 全体的な状況

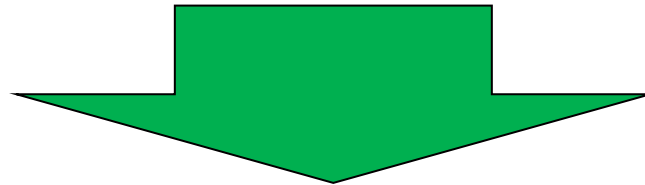
→ 法人の目指す方向性の実現に向けた取組や成果を記載。

③ 各中期目標の達成状況（教育研究の質の向上に関する事項のみ）



第4期達成状況報告書のコンセプト

評価指標の達成状況に重点を置いた構成



<自己分析・評価が求められる内容>

[評価指標の達成状況]

- ① 定量的な評価指標：当該指標に係る基準値、目標値及び実績値
- ② 定性的な評価指標：当該指標に関わる取組や活動の実績
- ③ 自己判定：当該指標に係る達成状況（iii～i判定のいずれか）
- ④ 上記③の結果、達成が見込まれない（i判定）場合、その理由
- ⑤ 特記事項：当該指標に係る優れた実績・成果等

[中期計画の実施状況]

- ⑥ 評価指標の設定がない事項の実施状況及び優れた実績・成果等
- ⑦ 評価指標の設定がない事項の達成が見込まれない場合、その理由



中期目標の達成状況の自己評価①

法人担当者

[評価指標の達成状況]

① 定量的な評価指標：当該指標に係る基準値、目標値及び実績値

※ 基準値とは、目標値設定の際に基準とした特定の時点の実績値

※ 目標値とは、評価指標に記載のある数値目標

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況【4年目終了時】

令和4年度～令和7年度の実績だけでなく、令和8・9年度の見込みも含めて、iii～iのいずれかを自己判定

No.	基準値	実績				見込み		目標値
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
①	R3年度 24	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R9年度 32

② 定性的な評価指標：当該指標に関わる取組や活動の実績

2) 定性的な評価指標

・評価指標の達成状況【4年目終了時】

令和4年度～令和7年度の実績だけでなく、令和8・9年度の見込みも含めて、iii～iのいずれかを自己判定

No.	進捗等
②	<令和4～7年度の実績及び令和8～9年度の見込み> (自己判定がiiiの場合、「優れた実績・成果等」を⑤特記事項への記載が必須)



中期目標の達成状況の自己評価②

法人担当者

◎ 自己判定：当該指標に係る達成状況（iii～i判定のいずれか）

判定を示す記述	判断基準	
	定量的な評価指標	定性的な評価指標
達成水準を大きく上回ることが見込まれる(iii)	客観的に実績値(見込)が達成水準(目標値)を大きく上回ることが見込まれる場合(大きく上回る水準は130%以上を目安としつつ基準値及び目標値の設定状況や目標の困難度等を踏まえて評価指標ごとに判断する)	達成水準を満たすことが見込まれる上で、優れた実績・成果が見込まれる場合 ※E欄への記載が必須
達成水準を満たすことが見込まれる(ii)	客観的に達成水準(目標値)を満たすことが見込まれる場合	実績・成果により、達成水準を満たすことが見込まれる場合
達成水準を満たさないことが見込まれる(i)	客観的に達成水準(目標値)を満たさないことが見込まれる場合	実績・成果に鑑みて、達成水準を満たさないことが見込まれる場合

◎ 上記◎の結果、達成が見込まれない(i判定)場合、その理由

※ 「意欲的な評価指標」の場合、取組の進捗等を含む。



中期目標の達成状況の自己評価③

法人担当者

- ⑤ 特記事項：当該指標に係る優れた実績・成果等
- 定量的な評価指標の場合、その実績（見込みを含む）が優れた実績・成果等に至った取組や活動を記載することが考えられます。
 - 定性的な評価指標の場合、その実績（見込みを含む）によって得られる優れた実績・成果等を記載することが考えられます。

[中期計画の実施状況]

当該中期計画のうち評価指標の設定がない事項があれば、⑥または⑦に記載。

- ⑥ 評価指標の設定がない事項の実施状況及び優れた実績・成果等
- 当該事項の達成が見込まれる場合には実施状況を簡潔に記載。
なお、その際、優れた実績・成果等を記載することも可能。
- ⑦ 評価指標の設定がない事項の達成が見込まれない場合、その理由
- 当該事項の達成が見込まれない場合には、評価指標の達成が見込まれない場合と同様、その理由を簡潔に記載。

注) 評価指標の設定がない事項がなければ、⑥⑦には記載不要。



達成状況報告書の頁数等上限

法人担当者

- ◆ 達成状況報告書の頁数等上限については、以下のとおり。
 (「実績報告書作成要領」及び「達成状況報告書の作成に当たって」を参照)

中期計画	中期計画の実施状況等																														
<p>【01】~~~~~</p> <p>自己評価の結果、①~③を【中期計画の実施状況】欄に記載。</p> <p>※ 一つの中期計画ごとに最大2頁。内容(事項)ごとに記載するものとし、一つの内容(事項)に記載する文字数は最大400文字。</p> <p>自己評価の結果、④~⑥を【評価指標の達成状況】欄に記載。</p>	<p>《中期計画の実施状況》 <令和4~7年度の実績及び令和8~9年度の見込み></p> <p>【評価指標】の達成状況</p> <p>1) 定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況【4年目終了時】</p> <table border="1" data-bbox="726 845 1808 953"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">基準値</th> <th colspan="5">実績</th> <th colspan="2">見込み</th> <th rowspan="2">目標値</th> </tr> <tr> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>R5年度</th> <th>R6年度</th> <th>R7年度</th> <th>R8年度</th> <th>R9年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p><補足></p> <p>2) 定性的な評価指標 ・評価指標の達成状況【4年目終了時】</p> <table border="1" data-bbox="726 1176 1808 1276"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>進捗等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td><令和4~7年度の実績及び令和8~9年度の見込み></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 定性的な評価指標については、内容(事項)ごとに記載するものとし、一つの内容(事項)に記載する文字数は最大400文字。</p>	No.	基準値	実績					見込み		目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	①	24							32	No.	進捗等	②	<令和4~7年度の実績及び令和8~9年度の見込み>
No.	基準値			実績					見込み			目標値																			
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度																							
①	24							32																							
No.	進捗等																														
②	<令和4~7年度の実績及び令和8~9年度の見込み>																														



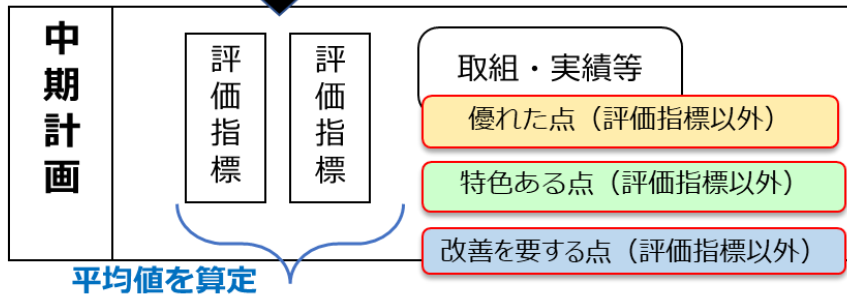
評価指標→中期計画の段階判定

評価者

◆ 中期計画では、評価指標の3段階判定の平均値に優れた点、特色ある点及び改善を要する点を加算・減算して5段階で判定。

評価指標

達成状況	大きく上回って達成	達成	未達成
評価指標段階判定	iii	ii	i
	必ず優れた点 (評価指標)	取組内容によっては特色ある点 (評価指標)	必ず改善を要する点 (評価指標)



評価指標判定平均 & 加算・減算	2.8 以上	2.4 以上	2.0 以上	1.5 以上	1.5 未満
中期計画判定	V	IV	III	II	I

- ※1 1つの中期計画ごとに合計2個まで抽出することを上限とする。また、それぞれの加算点については、以下のとおりとする。
 優れた点 (評価指標以外) → 1個当たり0.2点を加算する。
 特色ある点 (評価指標+評価指標以外) → 1個当たり0.1点を加算する。
- ※2 内容に応じて、以下のとおり段階的に減算するものとする。
 達成が見込まれない場合 → 1個当たり0.2点を減算する。
 全く取り組んでいないなどの重大な内容 → 1個当たり0.5点を減算する。

- 優れた点 (評価指標以外) ※1
- 特色ある点 (評価指標+評価指標以外) ※1
- 改善を要する点 (評価指標以外) ※2

注) 上記矢印はイメージであり、矢印以外の判定から加算・減算もあり得る。



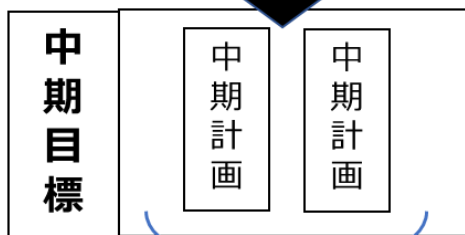
中期計画→中期目標の段階判定

評価者

◆ 中期目標では、中期計画の5段階判定の平均値を基に、6段階で判定（積み上げ方式）。ただし、「重大な改善事項」については、国立大学教育研究評価委員会が特に認める場合のみ。

中期計画

評価指標 判定平均 & 加算・減算	2.8 以上	2.4 以上	2.0 以上	1.5 以上	1.5 未満
中期計画判定	V	IV	III	II	I



平均値を算定

中期計画 判定平均	4.2 以上	3.6 以上	3.0 以上	2.0 以上	2.0 未満	重大な 改善 事項
中期目標 段階判定	特筆	計画 以上	順調	概ね 順調	遅れて いる	重大な 改善 事項



中期目標までの段階判定の例

評価者

評価指標

評価指標	① A	① B	① C
段階判定	iii	ii	ii

<評価指標の設定のない事項>

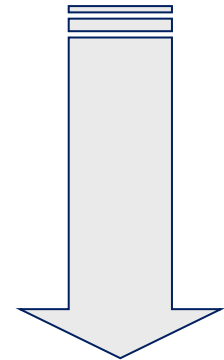
取組・実績等

優れた点
(評価指標以外)

を抽出

加算点: +0.2

<他の中期計画>



各評価指標の判定結果を点数化
(3~1点)し、平均値を算定



平均値: 2.33
※このままだと、中期計画Ⅲ判定



中期計画	①
段階判定	2.53 (=Ⅳ)

中期計画	②	③
段階判定	Ⅳ	Ⅲ



各評価指標の判定結果を点数化 (5~1点)し、平均値を算定

中期目標の段階判定	3.66 (=計画以上)
-----------	--------------

中期計画

中期目標

2. 学部・研究科及び研究組織等の 現況分析

- 現況調査表の作成
- 現況分析の評価方法
- 教育研究活動に関するデータ



学部・研究科及び研究組織等の現況分析

- ◆ 各学部・研究科及び研究組織等の教育上または研究上の目的に照らして、「教育の水準」及び「研究の水準」を「質の向上の状況」も含めて分析。

<各法人に提出いただくもの>

- ・ 現況調査表
- ・ 現況分析基本データ
- ・ 研究活動状況に関する資料

【現況調査表の構成】

① 目的と特徴

→ 教育研究活動を実施する上での基本方針等を記載。

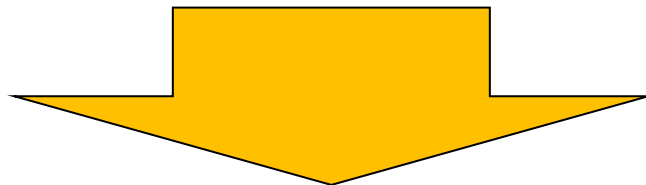
② 水準の分析

→ 目的に照らして、取組や活動、成果の状況がどの程度の質にあるのかという視点で、第3期中期目標期間終了時点と評価時点での質の向上の状況を含めて分析した結果を記載。



第4期現況調査表のコンセプト

学部・研究科及び研究組織等の特徴を明確に



- ◆ 「第4期中期目標期間に係る特記事項」において、教育研究活動に関するデータを活用して、優れた取組及び特徴的な取組、並びにそれらの成果を記載。

- ★ 取組や活動の内容（インプットやプロセス）だけでなく、実績や成果の内容（アウトプットやアウトカム）を具体的かつ客観的に記載。
- ★ 実績や成果の内容（アウトプットやアウトカム）については、第3期中期目標期間終了時点から評価時点までの変化を具体的かつ客観的に記載。



現況調査表の頁数等上限

法人担当者

(1) 目的・特徴

1. ~~~
2. ~~~
3. ~~~

【目的と特徴】※共通

- ① 1頁以内
 - ② 1頁1,200字（MSゴシック体11ポイント）
- ※ 補足として図表等を別添として使用する場合、水準の分析の別添に含めるものとする。

(2) 水準の分析

【特記事項】

- ~~~
- ~~~
- ~~~

【「教育の水準」の分析】

- ① 最大3頁
- ② 1頁1,200字（MSゴシック体11ポイント）
- ③ 補足として図表等を別添とする場合、最大2頁

【「研究の水準」の分析】

- ① 最大2頁
 - ② 1頁1,200字（MSゴシック体11ポイント）
 - ③ 補足として図表等を別添とする場合、最大1頁
- ※ 「研究業績説明書」と重複がないように記載。

注) 段階判定の自己評価は必要ありません。



現況分析の評価方法（教育の水準）

評価者

- ◆ 10の学系ごとに実施。
 - 人文科学系、社会科学系、理学系、工学系、農学系、保健系、教育系、総合文系、総合理系、総合融合系

判定区分表
特筆すべき高い質にある
高い質にある
相応の質にある
質の向上が求められる

【加点の要素】

- ・優れた点、特色ある点※1
- ・教育活動に関するデータの優れた実績※2

【減点の要素】

- ・改善を要する点
- ・教育活動に関するデータの改善を要する状況※2

※1 各学部・研究科等の目的や特徴、特色等に即して、優れた取組及び特徴的な取組、並びにそれらの成果が認められる場合には、その内容に応じて「**優れた点**」や「**特色ある点**」として抽出(合計2個まで)。

※2 教育活動に関するデータには、現況分析基本データ(教育に関する12指標)及び政府公表データ(国家試験の合格率等)の2種類がある。これらの指標については、同じ学系内における他法人の学部・研究科等の比較、当該学部・研究科等の経年変化等を分析した結果、加点又は減点の要素になり得る。



現況分析の評価方法（研究の水準）

評価者

◆ 教育と同じく10の学系に、大学共同利用機関を加えた11の学系で実施。

研究業績水準判定の結果

判定区分表
特筆すべき高い質にある
高い質にある
相応の質にある
質の向上が求められる

【加点の要素】



- ・優れた点、特色ある点※1
- ・研究活動に関するデータの優れた実績※2

【減点の要素】

- ・改善を要する点
- ・研究活動に関するデータの改善を要する状況※2

※1 各研究組織の目的や特徴、特色等に即して、優れた取組及び特徴的な取組、並びにそれらの成果が認められる場合には、その内容に応じて「優れた点」や「特色ある点」として抽出(合計2個まで)。

※2 研究活動に関するデータには、現況分析基本データ(研究に関する16指標)及び研究活動状況に関する資料(論文数等のデータ)の2種類がある。これらの指標については、同じ学系内における他法人の研究組織の比較、当該研究組織の経年変化等を分析した結果、加点又は減点の要素になり得る。



現況分析基本データの概要

法人担当者

- ◆ 現況分析の実施に当たり、全法人共通のデータ項目で収集・蓄積し、法人の自己評価や評価者による分析に活用する客観的なデータ（指標）を作成。

	第4期 【現況分析基本データ】	第3期 【データ分析集】
①データの作成単位	現況分析単位のみ 教育：学部・研究科等 研究：研究組織等	法人が登録した各組織、 法人全体
②データの公表	評価の透明性の観点から公表	各法人の間でのみデータを 共有
③データの定義	既存調査の定義との共通化を 図り、機構独自のデータ定義 を極力用いない。	学校基本調査等の定義との 共通化
④指標の数	教育：12 研究：16 (合計28)	教育：24 研究：22 (合計46)



政府公表データの活用

- ◆ 教育活動に関連するデータについては、現況分析基本データ（教育面：E01～E12）とともに、以下の政府公表データを活用。
※ 当機構へのデータ提出の必要はありません。

<活用する政府公表データ>

（国家試験合格率）

- ・ 法科大学院修了者の司法試験合格率（法務省公表）
- ・ 獣医学課程卒業者の獣医師国家試験合格率（農林水産省公表）
- ・ 医学課程卒業者の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 歯学課程卒業者の歯科医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 薬学課程卒業者の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 看護学課程卒業者の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

（教員就職率）

- ・ 教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）
- ・ 正規任用のみの教員就職率（教員養成課程）（文部科学省公表）
- ・ 教員就職率（教職大学院）（文部科学省公表）
- ・ 正規任用のみの教員就職率（教職大学院）（文部科学省公表）



研究活動状況に関する資料

法人担当者

- ◆ 研究活動に関連するデータについては、現況分析基本データ（研究面：R01～R16）とともに、研究活動の活性度を評価するため、本様式を使用。
- ◆ 本様式における項目や定義は、文部科学省が実施している国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分について」の研究業績数調査と共通化。

<人文科学系、社会科学系、教育系、総合文系、総合融合系の場合>

法人番号	99	法人名	学位機構
大学番号	98	大学名	小平大学
現況分析単位番号	01	現況分析単位名	文学部
学系番号	01	学系名	人文科学系

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教員数				
学術図書				
査読付き論文				
作品等				

3. 研究業績水準判定

- 研究業績説明書の作成



研究組織等の研究業績水準判定

- ◆ 各研究組織等の代表的な研究業績について、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の観点から、それぞれの水準を判定。
- ◆ 研究業績水準判定結果については、達成状況評価及び現況分析（特に「研究の水準」）に活用。

<各法人に提出いただくもの>

- ・ 研究業績説明書

【研究業績説明書の主な項目】

- ① 研究組織等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準
- ② 教員数、提出できる研究業績数の上限
- ③ 代表的な研究業績
 - ・ 小区分番号、小区分名
 - ・ 研究テーマ及び要旨
 - ・ 「学術的意義」、「社会、経済、文化的意義」
 - ・ 判断根拠
 - ・ 代表的な研究成果・成果物（研究テーマごとに最大3つ）



選定に当たっての留意事項

法人担当者

- 選定できる研究業績数は、各研究組織等の教員数の原則20%を上限
- 選定に際しては、第三者評価や客観的指標等を基に、当該組織の代表する優れた研究業績（「SS（卓越）」、「S（優秀）」）と判断されるものを厳選

<研究業績の水準判定の区分と判断基準>

【学術的意義での判断基準】

SS：当該分野において、卓越した水準にある

S：当該分野において、優秀な水準にある

A：当該分野において、良好な水準にある

B：当該分野において、相応の水準にある※

C：上記の段階に達していない

※（標準的な研究業績）

【社会、経済、文化的意義での判断基準】

SS：社会、経済、文化への貢献が卓越している

S：社会、経済、文化への貢献が優秀である

A：社会、経済、文化への貢献が良好である

B：社会、経済、文化への貢献が相応である※

C：上記段階に達していない

※（標準的な研究業績）